

科目名	工芸製図	年次	2	単位数	2
授業期間	2024年度 前期～後期	形態	実習		
教員名	高橋 亜希、尾原 久永				
クラス名	【19生対象】				
授業目的と到達目標					
(前期 尾原)デザイナーとして必要な製図の基礎知識を習得し、デジタルツールを応用出来るスキルを養う。 (後期 高橋)テキスタイル・染織コースでは、着物の裁ち方や洋服のパターンの知識も必要となる。後期は和裁の基本を習得することを目的とし、作品制作における構想やデザインをより具体的に描画できる能力を養う。					
授業概要					
【対面授業】(前期 尾原)デザイン系ソフトを使った製図の基本からスタートし、部屋空間をレイアウトする平面図作成から簡単なパース図作成までを行う。 (後期 高橋)着物の歴史について学び、自らが染色した浴衣地を用いて実際に浴衣を縫う。					
準備学修(予習・復習)・準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
受講、実習内容がより理解・習得できるように自己啓発すること。また、遅刻・私語は慎むこと。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
提出作品			80%		
制作構想(平常授業態度、発表など含む)			20%		
教科書情報					
教科書1	必要に応じてプリントを配布します。				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					
授業内容は予定であり、特別講義や展覧会見学などで変更する場合もある。					
教員実務経験					

(前期 尾原)デザイン制作会社を経営する教員が、コンピュータグラフィックソフトウェアを活用した実務経験を基に、作品創作に有益な製図知識の指導をする。
 (後期 高橋)織物指導(着物)をしてきた教員が実務経験を基に、作品創作に有益な製図知識の指導をする。
 大阪市立クラフトパーク 織物指導員|合同会社 AkiOri テキスタイルデザイナー

授業計画(各回予定)

授業回	授業内容
1	前期立体の表現方法、製図とCADに関する基本的な説明。 デザイン系ソフト:Illustratorの説明。基本操作の実技。
2	点・線・面の作図練習(基礎)
3	点・線・面の作図練習(応用)
4	身近な製品の2D製図作成【基本編】(1)Tシャツの採寸～作図
5	身近な製品の2D製図作成【基本編】(2)Tシャツの採寸～作図
6	身近な製品の2D製図作成【基本編】(3)Tシャツの採寸～作図
7	身近な製品の2D製図作成【応用編】(1)面処理の習得
8	身近な製品の2D製図作成【応用編】(2)面処理の習得と立体表現
9	身近な製品の2D製図作成【応用編】(3)平面図と立面図の制作
10	住空間の平面図作成(1)平面図の制作
11	住空間の平面図作成(2)平面図と立面図の制作
12	製図実習(1)居住空間における実寸把握作図習得
13	製図実習(2)居住空間における実寸把握作図習得
14	製図実習(3)居住空間における実寸把握作図習得
15	合評・総評
16	後期着物についての歴史的考察模造紙による1/2スケールの着物を試作
17	反物(浴衣地)の上に各部のサイズを記入する
18	反物(浴衣地)の上に各部のサイズを記入する
19	袖を縫うことから始める
20	身頃を縫う
21	身頃を縫う
22	脇を縫う
23	脇を縫う
24	衤を縫う
25	衤を縫う
26	衤をつける
27	袖をつける
28	細部の仕上げ着物のたたみ方を学ぶ小下絵を描く(自分が着たい着物、染めたい着物、織りたい着物を想定して模様を描く)
29	日本と西洋の衣服の違いを知り構造を確かめる
30	各自の縫った浴衣を着用してプレゼンテーション 合評

科目名	金工実習 I	年次	3	単位数	4
授業期間	2024 年度 前期～後期	形態	実習		
教員名	足立 正毅、水野 年彦				
クラス名					
授業目的と到達目標					
授業目的: ガス型鑄造・蠟型鑄造技法における、それぞれの造形性と技法・技術の違いを理解する。 到達目標: ガス型及び蠟型技法による鑄造2作品の制作。					
授業概要					
【対面授業】前期: 第一課題「ガス型鑄造による作品制作」と、その展示。 後期: 第二課題「蠟型鑄造による作品制作」と、その展示。担当教員ともに授業課題の内容に即した作品制作研究等の実務経験を有する。					
準備学修(予習・復習)・準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
作品制作にあたって構想の段階から技法・素材・展示方法などを含め、十分な検討を行っておくこと。					
成績評価方法・基準					
種別	割合(%)				
提出物	20				
制作作品	80				
教科書情報					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					
教員実務経験					
鑄金作家が指導にあたります。					
授業計画(各回予定)					

授業回	授業内容
1	【対面】「ガス型鑄造作品」課題説明、原型制作。
2	【対面】原型制作。
3	【対面】原型制作。
4	【対面】原型制作。鑄型制作。
5	【対面】原型制作。鑄型制作。
6	【対面】鑄型制作。
7	【対面】鑄型制作。
8	【対面】鑄型制作。鑄込み。
9	【対面】鑄込み。
10	【対面】鑄物仕上げ。
11	【対面】鑄物仕上げ。
12	【対面】鑄物仕上げ。
13	【対面】作品展示部品及び、展示台制作。作品仕上げ。
14	【対面】作品展示部品及び、展示台制作。作品仕上げ。
15	【対面】作品提出、合評。
16	【対面】「蠟型鑄造作品」課題説明、作品資料配布。蠟型原型材料作り。
17	【対面】「蠟型鑄造作品」制作構想図提出、構想検討。蠟型原型材料作り。
18	【対面】「蠟型鑄造作品」構想検討。蠟型原型材料作り。蠟型原型制作。
19	【対面】蠟型原型制作。
20	【対面】蠟型原型制作。
21	【対面】蠟型原型制作。蠟型原型埋没。
22	【対面】蠟型原型埋没。鑄型焼成。
23	【対面】蠟型原型埋没。鑄型焼成。
24	【対面】鑄込み。
25	【対面】鑄込み。
26	【対面】鑄物仕上げ。
27	【対面】鑄物仕上げ。
28	【対面】作品展示部品及び、展示台制作。作品仕上げ。
29	【対面】作品展示部品及び、展示台制作。作品仕上げ。
30	【対面】作品提出、合評。

科目名	陶器実習 I	年次	2	単位数	4
授業期間	2024 年度 前期～後期	形態	実習		
教員名	田中 雅文				
クラス名					
授業目的と到達目標					
手捻り、轆轤、石膏型成形など土に対する基本的な制作技法を習得する中で、素材の特性を理解し、その造形表現を研究する。またその中で技法の応用や組合せなどを模索し、幅広い視野で自己表現を探求する。					
授業概要					
陶芸の制作で最も大切なことは素材(粘土、釉薬、装飾材など)の特性を熟知することである。そのためにまずは基本的な造形技法(手捻り、轆轤、石膏型成形)と装飾技法(削り、絵付け、釉薬)を広く体験し、結果の考察を繰り返すことで素材についての理解を深める。 また課題制作の中で、計画を立てることや制作途中の作品の管理方法についても学び、完成までの基本的な流れを理解することで自主的且つ意欲的な制作スタンスの獲得を目指す。					
準備学修(予習・復習)・準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
日頃より様々なジャンルの展覧会等で実物の作品を鑑賞し、自作との考察を深めておくこと。 限られた時間で効率的に制作を進めることができるよう計画性を持って課題に取り組むこと。					
成績評価方法・基準					
種別	割合(%)				
作品	50				
制作姿勢	30				
デザイン画、マケット、レポート等の提出物	20				
教科書情報					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
{田中雅文 Official site, http://tanakamasafumi.sakura.ne.jp/index.html }					
特記事項					

陶器実習Ⅰ(月曜日)、陶器実習Ⅱ(水曜日)、焼成実習Ⅰ(金曜日)は、同課題を通して連動し作品制作を進めていきます。

教員実務経験

陶芸作家／陶磁器デザイナー。国内外での作品発表、展覧会、企業タイアップによる製品制作など。

授業計画(各回予定)

授業回	授業内容
1	課題説明・道具作り
2	道具作り
3	土練り(荒練り、菊練り)
4	手捻り成形による造形・テーマ「音楽」の制作制作計画、個別面談
5	成形、装飾・制作進行状況により、随時個別指導を行う
6	仕上げ・制作進行状況により、随時個別指導を行う
7	轆轤成形による湯呑・テーマ「連続模様」の制作轆轤の基礎
8	轆轤の基礎・制作進行状況により、随時個別指導を行う
9	成形、装飾・制作進行状況により、随時個別指導を行う
10	仕上げ・制作進行状況により、随時個別指導を行う
11	石膏型成形による皿・テーマ「生き物」の制作原型制作
12	石膏型制作・制作進行状況により、随時個別指導を行う
13	成形、装飾・制作進行状況により、随時個別指導を行う
14	仕上げ・制作進行状況により、随時個別指導を行う
15	合評(課題提出)
16	石膏型による立体造形・テーマ「貝」の制作制作計画、個別面談
17	石膏型制作・制作進行状況により、随時個別指導を行う
18	成形、装飾・制作進行状況により、随時個別指導を行う
19	仕上げ・制作進行状況により、随時個別指導を行う
20	轆轤成形による鉢・テーマ「草花文、吉祥文」の制作制作計画、個別面談
21	成形、装飾・制作進行状況により、随時個別指導を行う
22	仕上げ・制作進行状況により、随時個別指導を行う
23	轆轤による円筒を基本とした造形・テーマ「時間」の制作／制作計画、個別面談
24	成形、装飾・制作進行状況により、随時個別指導を行う
25	仕上げ・制作進行状況により、随時個別指導を行う
26	手捻り成形による自由造形・テーマ「自由」の制作制作計画、個別面談
27	成形・制作進行状況により、随時個別指導を行う
28	装飾・制作進行状況により、随時個別指導を行う
29	仕上げ・制作進行状況により、随時個別指導を行う
30	合評(課題提出)

科目名	染織表現実習	年次	2	単位数	4
授業期間	2024年度 前期～後期	形態	実習		
教員名	竹垣 恵子、舘 正明				
クラス名					
授業目的と到達目標					
主に送りの基礎と1枚型での表現を学び、型技法による各自の表現力を養う(竹垣) ろう染めによる表現方法を学び、技法の理解と技術の習得、及びそれらの自己表現への反映を目指す(舘)					
授業概要					
型染めとシルクスクリーン(写真製版法)による作品制作から、送りの基礎を学ぶ。また1枚型による型染め作品制作を行う。(竹垣) スケッチ、下絵、染色と三段階のプロセスを踏むことで、スケッチを作品へと昇華させ、絵画的なろう染め作品を制作する(舘)					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
授業時間において指示された準備物及び資料等は必ず持参すること。実習に適した服装で出席すること					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
提出作品			80		
授業の取り組みへの姿勢			20		
教科書情報					
教科書1	適宜プリントを配布する				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					
教員実務経験					
(竹垣)染色による作品制作で活動する作家が担当する。 (舘)染色家の教員が制作、発表で得た知見を生かし染色表現の技法について指導する。					

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	授業全体の説明第一課題「1枚型」(黒色差し)の課題説明プランニング・型紙下絵作り
2	型彫り・糊置き
3	黒色差し・フィキサー処理・ソーピング
4	各色色差し
5	各色色差しフィキサー処理・ソーピング
6	第2課題「1枚型」(防染糊)の説明モチーフスケッチ・プランニング
7	型彫り・糊置き
8	色差し・蒸しによる後処理・糊落とし
9	第3課題「シルクスクリーン(写真製版法・顔料)」の説明モチーフスケッチ・プランニング
10	原画フィルム作り・写真製版プリント
11	第4課題「合わせ型」(捺染)の説明プランニング・型紙下絵作り
12	型彫り・色彩計画
13	捺染
14	捺染・フィキサー処理・ソーピング
15	合評
16	後期授業及びろう染め作品についての説明第1課題 スケッチを基礎とするろう染め制作色面構成、原寸草稿
17	第1課題 スケッチを基礎とするろう染め制作トレース、基本的な制作工程の説明、染色工程開始
18	第1課題 スケッチを基礎とするろう染め制作染色工程ろう置き、染色の繰り返し第2課題 写真を基礎とするろう染め制作アイデアスケッチ
19	第1課題 スケッチを基礎とするろう染め制作 脱ろうソーピング・合評第2課題 写真を基礎とするろう染め制作 色草稿
20	第2課題 写真を基礎とするろう染め制作原寸草稿
21	第2課題 写真を基礎とするろう染め制作トレース、染色工程開始
22	第2課題 写真を基礎とするろう染め制作染色工程ろう置き、染色の繰り返し第3課題 与えられたテーマによるろう染め制作アイデアスケッチ
23	第2課題 写真を基礎とするろう染め制作染色工程ろう置き、染色の繰り返し第3課題 与えられたテーマによるろう染め制作色草稿
24	第2課題 写真を基礎とするろう染め制作 脱ろうソーピング・合評第3課題 与えられたテーマによるろう染め制作原寸草稿
25	第3課題 与えられたテーマによるろう染め制作トレース・染色工程開始
26	第3課題 与えられたテーマによるろう染め制作染色工程ろう置き、染色の繰り返し
27	第3課題 与えられたテーマによるろう染め制作染色工程ろう置き、染色の繰り返し
28	第3課題 与えられたテーマによるろう染め制作 染色工程脱ろうソーピング
29	表装 パネル張り
30	合評

科目名	工芸製図	年次	2	単位数	2
授業期間	2024年度 前期～後期	形態	実習		
教員名	井上 剛				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p>第三者とのイメージの相互理解が必要な場合、図面を介することは非常に有効な手段であり、生産、製作の上では必須となっている。この授業を通して基本的な製図法を理解し、図面の「読み」「書き」を実践する。正投影法をはじめとする基本的な製図法を理解し、第三者に伝達する為に必要な作図力を身につけることを目的とする。</p>					
授業概要					
<p>【対面授業】製図に関する基本知識の学習をと基礎実習作業を通し、第一に「伝える」ための方法を習得し、その後、与えられた図面からそれを実製作することで双方の立場にたって製図に対する理解を深める。教員は、建築やデザインに関する業務実績を活かしより具体的で実践的な指導をする。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
各種製図法(投影法)についての予習					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
実習課題			80		
習熟と理解			10		
その他の提出物			10		
教科書情報					
教科書1	「製図実習」セラミックコース				
出版社名	大阪芸術大学刊	著者名	南和伸		
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					
教員実務経験					
ガラス作家／プロダクトデザイナー、建築家、企業などと協業して、様々なガラス作品、製品などを制作					

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	授業ガイダンス／準備物の説明／概要「製図とは？」／課題説明
2	製図法の概要／製図に用いられる「線種」の理解
3	製図を用いた製作の実例レクチャー
4	製図の基礎1フリーハンド製図の練習
5	製図の基礎2第三角法の理解
6	投影法について 各投影法の特徴の理解、小プリントによる読図のトレーニング
7	マグカップの製図「現物の実測～作図まで」1 各自持参したマグカップを採寸し、フリーハンドで下書きする
8	マグカップの製図「現物の実測～作図まで」2 フリーハンドの下書きのチェック→本製図のための下書き
9	マグカップの製図「現物の実測～作図まで」3 製図作業
10	マグカップの製図「現物の実測～作図まで」4 製図作業
11	マグカップの製図「現物の実測～作図まで」5 図面完成→合評
12	造形演習「美しいかたち」1 「美しいかたち」について講義
13	造形演習「美しいかたち」2 「美しいかたち」についてリサーチ
14	造形演習「美しいかたち」3 「美しいかたち」要素の再構成／粘土による造形の試み(エスキース)
15	造形演習「美しいかたち」4 「美しいかたち」要素の再構成／粘土による造形の試み(エスキース)
16	造形演習「美しいかたち」5 前期に作成したエスキースを基に石膏モデリング
17	造形演習「美しいかたち」6 石膏モデルの制作
18	造形演習「美しいかたち」7 石膏モデルの完成→合評
19	プロダクトデザインのロールプレイング「注器の制作」1 課題説明／リサーチ
20	プロダクトデザインのロールプレイング「注器の制作」2 リサーチ／「企画立案」
21	プロダクトデザインのロールプレイング「注器の制作」3 プレゼンテーション資料の作成
22	プロダクトデザインのロールプレイング「注器の制作」4 ロールプレイング「企画コンペ」
23	プロダクトデザインのロールプレイング「注器の制作」5 量産を前提として「デザイン→製図」
24	プロダクトデザインのロールプレイング「注器の制作」6 製図作業
25	プロダクトデザインのロールプレイング「注器の制作」7 製図作業
26	プロダクトデザインのロールプレイング「注器の制作」8 製図作業
27	プロダクトデザインのロールプレイング「注器の制作」9 図面提出、モデリング(マケット)作成準備
28	プロダクトデザインのロールプレイング「注器の制作」10 製品モデル(マケット)製作作業
29	プロダクトデザインのロールプレイング「注器の制作」11 製品モデル(マケット)製作作業
30	プロダクトデザインのロールプレイング「注器の制作」12 最終提出／講評会／授業総括

科目名	金工実習Ⅱ	年次	3	単位数	4
授業期間	2024年度 前期～後期	形態	実習		
教員名	長谷川 政弘、佐藤 享弘				
クラス名					
授業目的と到達目標					
アセチレン溶接、MIG 溶接などの溶接機材の取り扱いを学び、溶接技術を習得する。安全でスムーズな溶接作業ができ、鉄素材の特性を理解する事を目標とする。ものと身体との関係に目を向け、そこから生まれる気づきから作品を構築できる力を養う。後期は展覧会での作品発表を前提とした作品を制作し、そこで得たものを4回生の制作につなげる。					
授業概要					
前期は「鉄課題」と「ジュエリー課題」の2課題を行う。 「鉄課題」:アセチレンガスや電気溶接機を使って溶接、溶断の練習を行ったのち鉄板で来年の干支「巳(へび)」を制作する。 「ジュエリー課題」:身体とかかわる小立体を銅の板や線材を用いて制作する。後期は「環境と向き合う」をテーマに作品を制作する。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
「鉄課題」: 鉄でつくられた彫刻作品、工芸作品を調べてパワーポイントで編集し授業内で発表してもらいます。5月にアセチレンガス技能講習修了証を取得してもらいます。完成作品はすべてポートフォリオを制作してもらいます。 「ジュエリー課題」: ジュエリー作家の作品の中から「好きな作品」と「嫌いな作品」を各一点ずつ紹介し、その理由を述べてもらいます。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
授業に取り組む姿勢			40		
作品構想、完成作品			60		
教科書情報					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1	ジュエリー課題:「アフォーダンス入門 - 知性はどこに生まれるか」				
出版社名	講談社	著者名	佐々木正人		
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			

参考 URL	
https://masaab.sakura.ne.jp	
特記事項	
ジュエリー課題:「TALENTE」「SCHMUCK」等の作品カタログが図書館に 収蔵されていますので参考にご覧ください。	
教員実務経験	
金属造形作家である教員とジュエリー作家の教員が豊かな経験を生かした指導を行う。	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	A 班 B 班合同ガイダンス
2	鉄課題「卯(うさぎ)」アセチレン溶断、エアープラズマ溶断の実技講習
3	アセチレン溶接、MIG 溶接の実技講習
4	干支制作:アイデア提出、紙による模型づくり
5	干支制作:溶断、切断
6	干支制作:成形(曲げ、叩きなど)溶接
7	干支制作:仕上げ→完成
8	ジュエリー課題「身体と関わる小立体」・課題説明・作品紹介
9	・制作実習 ・アイデアのチェック
10	・制作実習
11	・制作実習
12	・制作実習
13	・制作実習 ・仕上げ ・写真撮影(装着された状態)
14	学外授業
15	「鉄課題」「ジュエリー課題」合同合評 後期課題の導入
16	後期課題「環境と向き合う」置かれる環境と作品について考える教員によるレクチャーと学生によるパワーポイントを使ったプレゼンテーション
17	学外講師による特別授業
18	アイデアと制作構想の発表1
19	アイデアと制作構想の発表2
20	作品制作1
21	作品制作2
22	作品制作3
23	作品制作4
24	作品進行状況の中間報告
25	作品制作5
26	作品制作6
27	作品制作7
28	作品制作8
29	画像パネル制作 大学内ギャラリー展示準備
30	「環境との対峙」大学内ギャラリーでの公開合評

科目名	陶器実習Ⅱ	年次	2	単位数	4
授業期間	2024年度 前期～後期	形態	実習		
教員名	西川 勝				
クラス名					
授業目的と到達目標					
陶芸の基礎的な形態と装飾についての理解を深め、形態と装飾の融合とその可能性を探求する。					
授業概要					
対面授業 陶芸において装飾は大切な要素である。作られた作品がより魅力的に加飾されなくてはならない。そのため、筆描や化粧土によるかき落とし、象嵌、顔料による彩色、施釉など、文様と色彩のバランスを考察しながら授業をすすめていく。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
各課題には、アイデアスケッチ、デッサン、エスキース等を提出する事。夏季休暇中の研究、論文あり					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
授業に対する姿勢			30		
課題作品の評価			70		
教科書情報					
教科書1	なし				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1	なし				
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					
数多くの公募展入選と百貨店などで個展を開催し、様々な受賞歴を持つ経験豊富な陶芸家が、釉薬 焼成 粘土造形の技術を教え、表現の幅を広げるようにする。					
教員実務経験					
授業計画(各回予定)					

授業回	授業内容
1	課題説明
2	道具作りの説明と種類
3	竹べら、カンナ、こて、トンボなど陶芸で使う道具を作る
4	手びねりによる作品制作をおこなう(曲線または、角のある形体)
5	主に紐づくりによる技術を習得する。
6	形完成後、下絵具(化粧土 白 黒 青などの色化粧)を使い掻き落としによる加飾を行う赤合わせ土を使用し各5枚、2セット
7	化粧による加飾完了後、素焼き 施釉(透明釉)を行い 1230℃で本焼き(酸化焼成)を行う
8	轆轤成形による湯呑制作(信楽粘土)
9	大きさ直径 8 cm高さ 10 cm以内(焼成後)
10	シッタを使い高台づくり
11	乾燥し素焼きをおこなう
12	素焼き後、呉須、色呉須による加飾を行う
13	加飾後本焼きをし、完成
14	石膏型による皿の制作(テーマ生き物など)
15	信楽、赤土粘土を使うそれぞれ 5 点ずつ(10 点)
16	原形を粘土で作し、石膏を流して型を作るタタ板(スライスした板状の粘土)を型に押し当てて成形する
17	大きさ長辺 21 cm程度深さ任意乾燥後素焼きを行う
18	加飾を行う、呉須、アマコ絵具 4 色使用
19	石膏型による立体造形制作(テーマ貝など)
20	石膏型制作(合わせ型) 抜け勾配など石膏技術の習得2~3面割にする
21	粘土で原形を作り、石膏で型をとる。それを元に、赤、信楽粘土でそれぞれ 4 点ずつ制作する大きさ20cm ³ 程度(容積換算)
22	素焼き、施釉、本焼きののち完成釉薬は材料演習で実験したものを使用、本焼きして完成
23	轆轤によるボール制作(5 組2セット) 直径15cm、形状にあう深さ(焼成後)
24	素焼き後、加飾を行う(呉須、色呉須使用)施釉、本焼き(酸化、還元焼成)
25	轆轤による円筒を基本とした造形轆轤技術の向上を目指す。3 kgの粘土で直径15cm、高さ30cmの円筒をつくる
26	円筒が出来た者は、胴を膨らませて壺のような形態のものに挑戦する素焼きの後、加飾、施釉、本焼き(酸化、還元)完成
27	手びねりによる自由造形制作テーマは各自、自ら考える
28	粘土、釉薬、加飾それぞれ自ら選ぶ
29	大きさ、焼成後30cm ³ 程度(容積換算)
30	加飾終了後、乾燥、素焼き、本焼きを行う。酸化、還元焼成の理解を深める

科目名	ガラス工芸実習 I	年次	3	単位数	4
授業期間	2024 年度 前期～後期	形態	実習		
教員名	山野 宏				
クラス名					
授業目的と到達目標					
実際に使うことを考慮したテーブルウェア、器などをデザインし制作することで発想とデザイン能力を養い、同時に吹きガラス技法のさらなる技術習得を目指します。作品制作の前にコンセプトボードを制作し、パワーポイントによるプレゼンテーションを行いプレゼン能力の向上も目指します。					
授業概要					
対面授業アイデアスケッチに基づくディスカッション、プレゼンテーション、制作技法デモ、制作実習、講評会の順序で授業を基本的に進めます。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
吹きガラス工房では必ず綿の作業服を着用する事。ハイヒールでの制作は禁止します。教員、助手の指示に従い安全な作業を心がけてください。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
制作作品			50		
プレゼンテーション			50		
教科書情報					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					
教員実務経験					
ガラス工芸作家 ガラス工房経営					

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	「自分のタンブラー」の課題説明、球体の制作デモ
2	アイデアスケッチ提出／面談制作実習
3	面談／デモ制作実習
4	面談／デモ制作実習
5	パワーポイントによる作品プレゼンテーション／ボード提出講評会
6	タンブラーの制作実習 各々の学生のアイデアスケッチに基づく制作デモ
7	タンブラーの制作実習 各々の学生のアイデアスケッチに基づく制作デモ
8	「自分の花器」の課題説明、制作デモタンブラー制作実技試験
9	アイデアスケッチ提出／面談タンブラー制作実技試験
10	面談／デモタンブラー制作実技試験
11	パワーポイントによるプレゼンテーション／プレゼンテーションボード提出講評会タンブラー制作実技試験
12	花器の制作実習、各々の学生のアイデアスケッチに基づく制作デモ
13	花器の制作実習、各々の学生のアイデアスケッチに基づく制作デモ
14	花器制作実習
15	前期講評会
16	「飲器と食器」課題説明 制作デモ 制作実習
17	アイデアスケッチ提出／面談制作実技試験
18	面談／デモ制作実習
19	面談／デモ制作実習
20	パワーポイントによるプレゼンテーション／プレゼンテーションボード提出講評会
21	制作実習、各々の学生のアイデアスケッチに基づく制作デモ
22	制作実習、各々の学生のアイデアスケッチに基づく制作デモ
23	制作実習
24	「自分のテーブル」課題説明 制作デモ 制作実習
25	面談／デモ制作実習
26	パワーポイントによるプレゼンテーション／プレゼンテーションボード提出講評会
27	制作実習、各々の学生のアイデアスケッチに基づく制作デモ
28	制作実習、各々の学生のアイデアスケッチに基づく制作デモ
29	制作実習
30	講評会

科目名	テキスタイルアート実習 I	年次	2	単位数	4
授業期間	2024 年度 前期～後期	形態	実習		
教員名	岸田 めぐみ				
クラス名					
授業目的と到達目標					
織物制作に必要な基本的知識(織布の構造や素材ごとの性質等)や技術(織り方・道具や素材の扱い方)を習得することを目的とする。本学ディプロマポリシーにある専門的な能力の獲得を目指すことで、次学年における作品制作上で表現を探求・展開していく一助となることを目標とする。					
授業概要					
織りの工程を理解するために、平織・組織織・綴織・緋織等の技法を用いて制作課題に取り組む。植物繊維や動物繊維等様々な素材の糸を使用して、展示を目的とした作品(タペストリー等)、使用を目的とした作品(帯・巻物等)、小作品冊子を制作する。本実習では糸を織るだけでなく、糸を染める・糸を紡ぐ方法も学習する。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
各自作業に適した服装で授業に参加すること。糸の染色作業時は作業着・作業靴を着用のこと。授業時間内に指示した準備物は、必ず次回授業時まで用意し、持参すること。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
提出作品			80		
授業に取り組む姿勢			20		
教科書情報					
教科書1	授業課題に応じて適宜プリント配布				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					
授業内容は、授業進行状況により変更する場合があります。					

教員実務経験

テキスタイルアート作品を制作する作家が、これまでの制作発表活動の経験を活かし、制作に必要な基礎的技術と作品展示方法について指導をおこなう。

授業計画(各回予定)

授業回	授業内容
1	授業について説明織りの組織サンプル制作課題①「綴織」 課題説明、プランニング
2	糸染め(酸性染料)課題①「綴織」 プランニング確認
3	課題①「綴織」 たて糸準備、糸染め計画、織り下図作成
4	糸染め(直接染料)課題①「綴織」 たて糸準備
5	課題①「綴織」 よこ糸の準備、織り
6	課題①「綴織」 織り
7	課題①「綴織」 織り
8	課題①「綴織」 織り
9	課題①「綴織」 織り
10	課題①「綴織」 織り
11	課題①「綴織」 織りはずし、仕上げ方法説明課題②「夏帯」 課題説明、プランニング
12	課題①「綴織」 作品合評課題②「夏帯」 たて糸準備
13	課題②「夏帯」 たて糸準備、織り
14	課題②「夏帯」 織り
15	課題②「夏帯」 織りはずし、仕上げ方法説明、作品合評夏期課題説明
16	夏期課題提出課題③「絣織」 課題説明糸の精練
17	課題③「絣織」 たて糸の糸染め、プランニング
18	課題③「絣織」 たて糸準備、よこ糸の絣括り
19	課題③「絣織」 たて糸準備、よこ糸の絣括り
20	課題③「絣織」 よこ糸の糸染め
21	課題③「絣織」 よこ糸の絣ほどぎ、織り
22	課題③「絣織」 織り
23	課題③「絣織」 織りはずし、仕上げ方法説明課題④「紡ぎ糸のマフラー」 課題説明、糸紡ぎ説明と作業
24	課題③「絣織」 作品合評課題④「紡ぎ糸のマフラー」 たて糸準備、織り
25	課題④「紡ぎ糸のマフラー」 織り～織りはずし、仕上げ方法説明
26	課題④「紡ぎ糸のマフラー」 縮絨作業、作品合評最終課題「小作品冊子」 課題説明、プランニング
27	最終課題「小作品冊子」 制作方法指導、制作準備
28	最終課題「小作品冊子」 各自制作
29	最終課題「小作品冊子」 各自制作
30	最終課題「小作品冊子」 作品仕上げ作業、冊子製本、作品合評

科目名	工芸製図	年次	2	単位数	2
授業期間	2024年度 前期～後期	形態	実習		
教員名	長谷川 政弘				
クラス名	【19生対象】				
授業目的と到達目標					
<p>図面とは、立体物をつくるすべての仕事において制作者の意向を伝えることができる重要な「共通言語」です。製図の基本を理解し、ものづくりのコミュニケーションを円滑にする事を目的とします。これから制作しようとする立体作品のアイデアを図面化することができ、逆に図面を読み取り、立体にイメージできる能力を身につける事を目標とします。</p>					
授業概要					
<p>前期は線の種類や使い方を知り、実際にある具体的なものを図面化する事によって、三面図の基本を理解します。後期は、まだ実在しない架空のもの(プラン)を図面化します。フリー曲線を使った作図やもう一つの平面表現であるレンダリングも学習します。最終的には個々がオリジナルグッズを発案・企画・提案し、全体の流れを通して図面の重要性を学びます。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<p>商品にはチラシやパンフレットがあります。その中には商品の説明、使用方法、価格など様々な情報が入っており消費者に購買意欲を持たせるための工夫がなされています。最後の課題は皆さんにオリジナルグッズを企画してもらい、図面とプレゼンボードにてプレゼンテーションをしてもらいます。商品のチラシを集めるなどして日頃から研究しておいて下さい。</p>					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
制作した図面、レポート、提出物			60		
授業に取り組む姿勢			40		
教科書情報					
教科書1	作図法など必要な資料は配布します。				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1	プロダクトデザインのための製図				
出版社名	日本出版サービス	著者名	清水吉治/川崎晃義		
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					

https://masaab.sakura.ne.jp	
特記事項	
教員実務経験	
プロダク製品や工芸作品の作図や制作の制作経験豊富な教員が指導を行います。	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	授業説明:年間の計画、図面の必要性、製図の基本を知る(三面図、三角法、線の種類や役割)
2	「練習問題」三面図の理解
3	練習問題の回答「線の練習 1」T 定規の使い方、実線、破線
4	「線の練習 2」一点鎖線、二点鎖線、特殊な線
5	「姿図からの作図」正式な図面の書き方、枠線、表題など
6	「姿図からの作図」レイアウト、外形線
7	「姿図からの作図」引き出し線、寸法線、寸法記入→完成
8	「木槌の作図」木槌の採寸
9	「木槌の作図」レイアウトの為の下書き
10	「木槌の作図」枠線、表題
11	「木槌の作図」外形線、面取りや R の指定、断面図
12	「木槌の作図」引き出し線、寸法線、寸法記入→完成
13	「青銅の蓋物の作図」鑄金実習で制作中の作品を図面化します。原型を採寸→下書き
14	「青銅の蓋物の作図」枠線、表題、外形線、断面図
15	「青銅の蓋物の作図」引き出し線、寸法線、寸法記入→完成次課題「中空構造の自由形態」課題説明
16	キャラクター人形の採寸→下書き
17	キャラクター人形の作図1
18	キャラクター人形の作図2
19	キャラクター人形の作図3
20	キャラクター人形レンダリング1
21	キャラクター人形レンダリング2「オリジナルキャラクターグッズ」課題説明
22	「オリジナルキャラクターグッズの企画」アイデアスケッチ→アイデアチェック
23	「オリジナルキャラクターグッズの企画」油土原型制作
24	「オリジナルキャラクターグッズの企画」寸法採寸→下書き
25	「オリジナルキャラクターグッズの企画」作図1
26	「オリジナルキャラクターグッズの企画」作図2
27	「オリジナルキャラクターグッズの企画」作図3→完成
28	「オリジナルキャラクターグッズの企画」プレゼンボード制作1
29	「オリジナルキャラクターグッズの企画」プレゼンボード制作2→完成
30	「オリジナルキャラクターグッズの企画」プレゼンテーション、合評

科目名	ガラス工芸実習Ⅱ	年次	3	単位数	4
授業期間	2024年度 前期～後期	形態	実習		
教員名	山野 宏				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p>前期／型作り、ホットキャスト、ホットワーク、コールドワーク技法をさらに習得し、立体物による制作コンセプト表現を学びます。</p> <p>後期／グループ展のための複数の作品制作を通し各々の制作スタイルを模索すると同時に、コンセプトを作品で表現することの経験を深め、卒業制作の前段階の準備をする。</p>					
授業概要					
<p>対面授業前期／ホットキャストイング、吹きガラス、コールドワーク技法を活用し、課題に沿って立体表現について学習します。</p> <p>後期／様々な技法を活用し、各々の学生の制作コンセプトに基づいて数展の作品を制作し、後期末にグループ展を行います。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
吹きガラス工房では必ず綿の作業服を着用する。ハイヒールでの作業は禁止します。教員及び助手の指示に従い安全に作業を行いましょ。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
制作作品			70		
プレゼンテーション			30		
教科書情報					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					

教員実務経験	
ガラス工芸作家 ガラス工房経営	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	課題説明「コンテナー」サンドキャスト、水砂キャストの技法解説とデモ
2	アイデアスケッチ提出／面談 モールドミックスキャストの技法説明とデモ
3	パワーポイントによる「プレゼンテーション」モールドミックスキャストの技法説明とデモ
4	水ガラスキャスト技法解説とデモ
5	ビレットキャスト技法の技法解説とデモ面談、制作実習
6	面談、制作実習
7	面談、制作実習
8	課題説明「見せ場」
9	アイデアスケッチ提出／面談
10	パワーポイントによる「プレゼンテーション」面談、制作実習
11	面談、制作実習
12	面談、制作実習
13	面談、制作実習
14	制作実習
15	講評会
16	後期課題説明／グループ展の開催について
17	アイデアスケッチを通しての面談
18	アイデアスケッチを通しての面談
19	プレゼンテーションの為に資料提出／面談
20	制作プレゼンテーション／講評
21	制作実習／制作アドバイス
22	制作実習／制作アドバイス
23	制作実習／制作アドバイス
24	制作実習／制作アドバイス
25	制作実習／制作アドバイス
26	制作実習
27	制作実習
28	制作実習
29	講評会
30	作品の写真撮影指導

科目名	工芸製図	年次	2	単位数	2
授業期間	2024年度 前期～後期	形態	実習		
教員名	田中 雅文				
クラス名					
授業目的と到達目標					
アイデア相互理解、また製作を依頼(受注)する場合、その伝達には正確な図面が必須である。基本的な製図法、陶磁器製図における図示法の理解と修得を図る。					
授業概要					
基本的な製図法である正投影法の理解に始まり、図面を正しく読む・作図の手順を知る・図面の様式等を知る、更に陶磁器慣例図示法の理解を得る事により、陶磁器デザイン段階での正しい考察力を身に付ける。また作図の中で、陶磁器の様々な機能に沿ったデザインを考察し、各形態に応じた図形・寸法の表し方を修得する。これらの技術を習得することにより、将来ものづくりの現場で第三者とのアイデアの相互理解が深まり、より多方面での創作活動の発展を目指す。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
身の回りにある「やきもの」の形状や厚みなど図面を書く観点から観察する					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
課題提出			80		
受講姿勢			20		
教科書情報					
教科書1	「製図実習」セラミックコース				
出版社名	大阪芸術大学	著者名	南 和伸		
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
{田中雅文 Official site, http://tanakamasafumi.sakura.ne.jp/index.html }					
特記事項					
陶磁器制作を専門とする中で素材の特質を活かしたより実践的な陶磁器製図、伝達方法を指導する。					

教員実務経験	
陶芸作家／陶磁器デザイナー。国内外での作品発表、展覧会、企業タイアップによる製品制作など。	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	課題説明。陶芸における製図の概要、準備物等の説明
2	製図の機能と役割(見やすい図面を作成する基本的な考え方)製図用具の種類と使用法
3	図面の大きさと様式、線の種類、文字の書き方正投影法の理解、第一角法と第三角法の比較
4	湯呑みの製図 1 完成品からの採寸
5	湯呑みの製図 2 完成品からの作図
6	湯呑みの製図 3 湯呑みをデザインする
7	湯呑みの製図 4 製図作業
8	湯呑みの製図 5 製図作業
9	湯呑みの製図 6 完成
10	カップ&ソーサーの製図 1 デザインの考察
11	カップ&ソーサーの製図 2 製図作業
12	カップ&ソーサーの製図 3 製図作業
13	カップ&ソーサーの製図 4 製図作業
14	カップ&ソーサーの製図 5 製図作業
15	カップ&ソーサーの製図 6 完成
16	陶磁器慣例図示法、寸法補助記号、円弧の寸法記入法
17	ティーポットの製図 1 デザインの考察
18	ティーポットの製図 2 製図作業
19	ティーポットの製図 3 製図作業
20	ティーポットの製図 4 完成
21	1面型鑄込み カップの制作 1 デザインの考察
22	1面型鑄込み カップの制作 2 図面作成
23	1面型鑄込み カップの制作 3 原型用ゲージの作成
24	1面型鑄込み カップの制作 4 石膏原型制作
25	1面型鑄込み カップの制作 5 石膏原型制作
26	1面型鑄込み カップの制作 6 使用型制作
27	1面型鑄込み カップの制作 7 使用型制作
28	1面型鑄込み カップの制作 8 泥漿制作
29	1面型鑄込み カップの制作 9 鑄込み作業
30	1面型鑄込み カップの制作 10 生地完成 総括

科目名	プロダクトデザイン演習	年次	2	単位数	2
授業期間	2024年度 前期	形態	演習		
教員名	河南 あすか				
クラス名					
授業目的と到達目標					
作品制作やプレゼン資料作成のための基本的なアプリケーション知識やデザインスキルの習得を通じて、作品の発表や提案(コンペ・インターン含む)に欠かせないムードボードや完成度の高いポートフォリオを制作することを目指します。					
授業概要					
対面授業作品の魅力を伝えるためには様々な素材が必要となります。この授業では作品素材(サイズ・マテリアル・技法・イメージなど)を基礎的な図面や写真・スケッチ・テキストとして実際に制作することで今後のプレゼンなどに役立てる素材集め・スキル習得を目指します。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
制作にあたって各自必要な機器や記憶メディアを各自必要に応じて準備・持参してください。(推奨例)・USBメモリ(32GB以上※推奨64GB/USB3.0)・筆記具(各自必要に応じて)・スマホ・パソコン・タブレット等・データの移動に必要な各種アダプター・Adobe CC(有償サブスク登録か一部アプリ使用可能な無料登録)・スマホやPCのペイントアプリなど					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
成果物の完成度			50		
必要なスキルの習熟度			20		
意欲的な課題への取り組み			30		
教科書情報					
教科書1	適時資料配布				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
Adobe Creative Cloud ラーニングとサポート {https://helpx.adobe.com/jp/support/creative-cloud.html?promoid=NGWGRLZ4&mv=other}}					

特記事項	
教員実務経験	
印刷会社勤務での実務経験を通して PC や印刷・デザインについてスキルを学び、フリーランスでグラフィックデザイナー・DTP オペレーター・漫画家・イラストレーターなど様々な作品表現の場で活動中。活動を通じて得た知見を皆様に伝えるため、デザイン学科プロダクトデザインコース『デジタルデザインスキル』工芸学科『プレゼンテーション演習(3年次)』を 2024 年現在担当。	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	授業についての概要説明(ガイダンス・ヒアリング)
2	作品視点～プロダクト作品としての視点【基本的な情報について／三面図など】
3	作品視点～プロダクト作品としての視点【外観について／写真など】
4	作品視点～プロダクト作品としての視点【作品意図について／テキスト・イメージボード・スケッチなど】
5	作品を伝えるスキル1～マテリアルと向き合う【マテリアルを撮影する】
6	作品を伝えるスキル1～マテリアルと向き合う【マテリアルを描く】
7	作品を伝えるスキル1～マテリアルと向き合う【マテリアルの特性を知る】
8	作品を伝えるスキル2～技法と向き合う【制作技法について語る】
9	作品を伝えるスキル2～技法と向き合う【制作過程の記録】
10	作品を伝えるスキル3～イメージと向き合う【『色』についての考察】
11	作品を伝えるスキル3～イメージと向き合う【『形状』についての考察】
12	作品を伝えるスキル3～イメージと向き合う【『意図』についての考察】
13	他者に作品を伝えるためのレイアウト制作【情報をまとめ実際にページとして制作】
14	他者に作品を伝えるためのレイアウト制作【情報をまとめ実際にページとして制作】
15	成果物の合評・講評・まとめ

科目名	プロダクトデザイン演習	年次	2	単位数	2
授業期間	2024年度 後期	形態	演習		
教員名	河南 あすか				
クラス名					
授業目的と到達目標					
作品制作やプレゼン資料作成のための基本的なアプリケーション知識やデザインスキルの習得を通じて、作品の発表や提案(コンペ・インターン含む)に欠かせないムードボードや完成度の高いポートフォリオを制作することを目指します。					
授業概要					
対面授業作品の魅力を伝えるためには様々な素材が必要となります。この授業では作品素材(サイズ・マテリアル・技法・イメージなど)を基礎的な図面や写真・スケッチ・テキストとして実際に制作することで今後のプレゼンなどに役立てる素材集め・スキル習得を目指します。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
制作にあたって各自必要な機器や記憶メディアを各自必要に応じて準備・持参してください。(推奨例)・USBメモリ(32GB以上※推奨64GB/USB3.0)・筆記具(各自必要に応じて)・スマホ・パソコン・タブレット等・データの移動に必要な各種アダプター・Adobe CC(有償サブスク登録か一部アプリ使用可能な無料登録)・スマホやPCのペイントアプリなど					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
成果物の完成度			50		
必要なスキルの習熟度			20		
意欲的な課題への取り組み			30		
教科書情報					
教科書1	適時資料配布				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
Adobe Creative Cloud ラーニングとサポート { https://helpx.adobe.com/jp/support/creative-cloud.html?promoid=NGWGRLZ4&mv=other }					

特記事項	
教員実務経験	
印刷会社勤務での実務経験を通して PC や印刷・デザインについてスキルを学び、フリーランスでグラフィックデザイナー・DTP オペレーター・漫画家・イラストレーターなど様々な作品表現の場で活動中。活動を通じて得た知見を皆様に伝えるため、デザイン学科プロダクトデザインコース『デジタルデザインスキル』工芸学科『プレゼンテーション演習(3年次)』を 2024 年現在担当。	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	授業についての概要説明(ガイダンス・ヒアリング)
2	作品視点～プロダクト作品としての視点【基本的な情報について／三面図など】
3	作品視点～プロダクト作品としての視点【外観について／写真など】
4	作品視点～プロダクト作品としての視点【作品意図について／テキスト・イメージボード・スケッチなど】
5	作品を伝えるスキル1～マテリアルと向き合う【マテリアルを撮影する】
6	作品を伝えるスキル1～マテリアルと向き合う【マテリアルを描く】
7	作品を伝えるスキル1～マテリアルと向き合う【マテリアルの特性を知る】
8	作品を伝えるスキル2～技法と向き合う【制作技法について語る】
9	作品を伝えるスキル2～技法と向き合う【制作過程の記録】
10	作品を伝えるスキル3～イメージと向き合う【『色』についての考察】
11	作品を伝えるスキル3～イメージと向き合う【『形状』についての考察】
12	作品を伝えるスキル3～イメージと向き合う【『意図』についての考察】
13	他者に作品を伝えるためのレイアウト制作【情報をまとめ実際にページとして制作】
14	他者に作品を伝えるためのレイアウト制作【情報をまとめ実際にページとして制作】
15	成果物の合評・講評・まとめ

科目名	文様論	年次	2	単位数	2
授業期間	2024年度 後期	形態	講義		
教員名	齋藤 朋子				
クラス名					
授業目的と到達目標					
東洋の工芸に施された文様を取り上げ、その流行・変遷・衰退を知り、文様を創造した人々・求めた人々の美意識、異文化の影響、こめられた意味を探る。工芸各分野の技法の発展と文様の変化の関係を学ぶ。文様を手懸りに、作品を観て感じ、考察したことを自分のことばで表現すること、日本の工芸史への理解を深めることを目標とする。					
授業概要					
日本の文様を理解する上で、異国、とりわけ中国からの影響は見逃せない。前半は中国の古代～唐時代の文様、さらに遠く西方に由来する文様が中心となる。後半は異国風文様の和様化、日本独自の文様を取り上げ、近世の西洋との交流にも触れる。また、各時代において、工芸技術の発展状況が、異国からの舶載品の国産化や文様の受容に大きく影響することを知るため、作品の細部写真を用いて比較、考察、問いかけをしていく。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
まずは、UNIPA で配信する授業資料を講義前に読んでおくこと(約 1 時間)。授業後にミニレポートを課す。教室での提出回と、次回授業前日までに UNIPA での提出回を設け(約 1 時間)、課題へのフィードバックは次回の授業のはじめに行う。詳細は初回に説明する。授業時に自主学習に役立つように参考図書や作品・展覧会の情報を示す。講義だけではなく、何よりも実作品を観る機会を持つことが望ましい。状況が許さなければ、図書館の利用や博物館のデジタル化された資料を検索して活用するなどの工夫が可能である。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
授業後ミニレポート課題			50		
学期末レポート			40		
平常点(授業・課題への取組み、質問への回答)			10		
教科書情報					
教科書1	各回 UNIPA で授業資料を配信する。				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1	漆芸品の鑑賞基礎知識				
出版社名	至文堂	著者名	小松大秀・加藤寛		
参考書名2	やきものの鑑賞基礎知識				
出版社名	至文堂	著者名	矢部良明編		
参考書名3	日本・中国の文様事典				
出版社名	視覚デザイン研究所	著者名	早坂優子		
参考書名4	染と織の鑑賞基礎知識				
出版社名	至文堂	著者名	小笠原小枝		
参考書名5					
出版社名		著者名			

参考 URL	
特記事項	
教員実務経験	
美術館の学芸員である教員が、調査や展示で館蔵品を実際に手に取り観察してきた経験を活かして、実見の機会を得た作品などを題材に解説し、作品や展覧会情報も提供していく。	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	講義予定と課題・評価について古代日本の文様 世界どの地域でも共通の文様 / 仏教伝来以前の日本の文様 / 我が国固有の文様 / 古墳時代の墳墓の副葬品 / 古代日本の造形の特質
2	古代中国の文様(1)青銅器の文様と変遷 古代の祭祀 / 古代青銅器の特色と技法 / 青銅祭器の役割と文様の変遷 / 西域文様の流入
3	古代中国の文様(2)神仙世界の文様 青銅器の成形技法と装飾技法 / 漢時代の主要な文様 / 墳墓出土の帛画にみる神話伝説の世界 / 銅鏡文様の変遷と神仙の世界
4	唐草文の世界 ~文様の伝播と変遷~ 古代文明にあらわれる植物文様 / 唐草文の起源と伝播 / 中国における唐草文の変遷 / 朝鮮半島・日本への伝播
5	楽園への憧れと花鳥文様 ~ササン朝ペルシアの文様の東方伝播~ 唐帝国の繁栄とペルシア文化の流入 / ペルシアの金属工芸 / パラダイス(楽園)の思想 / 唐時代の金銀器—技法と文様 / 隋・唐時代の鏡の文様
6	シルクロードと染織品の文様 染織品に見る技術と文様の変遷 / シルクロードによる絹織物と織物技術の伝播 / 法隆寺・正倉院伝来の染織品の文様—唐風から和風へ
7	有職文様・家紋について 装いの変遷 / 上代裂の文様—唐風から和風へ / 有職文様 / 家紋—日本独自の紋章文化
8	漆芸品にみる唐風文様の和様化 漆について / 漆工技法<素地成形・加飾> / 飛鳥・奈良・平安時代の漆工—唐風から和風へ
9	日本の工芸にみる文芸意匠—漆工技術の発達と新たな技法 鎌倉・室町時代の漆工 / 葦手絵 / 日本人と和歌
10	桃山の意匠—漆器を中心に 絵画にみる中世から近世へ / 桃山時代の工芸に共通する意匠 / 高台寺蒔絵 / 南蛮漆器
11	異国への憧れ—絨毯の文様 日本人と絨毯 / ペルシア絨毯と文様 / イスラムの装飾文様
12	やきものと文様(1)日本の古代・中世のやきもの 中国陶磁の影響と国産やきもの発展 / 加飾技法と文様
13	やきものと文様(2)中世から近世へ 茶の湯とやきもの / 色彩と文様で飾られたやきもの
14	近世の小袖意匠 装いの変遷<小袖の普及> / 小袖意匠の変遷(桃山・江戸前期・江戸中期~後期)
15	琳派と工芸意匠 琳派の登場—伝統様式への挑戦 / 光悦と宗達 / 琳派の大成 / 光琳と乾山 / 光琳意匠の流行と日本人の美意識授業のまとめ

科目名	造形芸術演習 I	年次	1	単位数	2
授業期間	2024 年度 前期	形態	演習		
教員名	加藤 隆明				
クラス名	工芸学科				
授業目的と到達目標					
現代のアートシーンの意味と意義についての理解と制作実践ができるようにする。表現者は社会とともにあり社会の一員でもある。身近な現実の体験から架空の疑似的体験まで表現者の制作意欲は揺さぶられる。その意欲が具体的制作に変換できるような思考と身体を用いられるようにできたらと考えている。					
授業概要					
課題テーマは基本 3 作品制作。1 作品課題に 5 回分の授業時間を想定している。授業時間以外にもイメージデッサンや素材選びなど制作思考継続が必要である。また、各自の制作スピードが異なるので自身が制作プランニングを予測し実行する必要がある。作品提出採点に関しては、制作学生と対話形式で互いに作品を鑑賞し言葉を交わし作品の理解を深める。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
工芸史美術史の大まかな理解は必要。社会の動向と作品のテーマ様式は密接にある。そのため身の回りにある社会的関心ごととは注意し調べておく必要がある。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
課題 3 つの提出。			課題 100 点満点で点数化する。その課題が 3 作品なので合計点を 3 で割り、その後欠席遅刻等の減点数を加味する。		
教科書情報					
教科書 1					
出版社名		著者名			
教科書 2					
出版社名		著者名			
教科書 3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名 1					
出版社名		著者名			
参考書名 2					
出版社名		著者名			
参考書名 3					
出版社名		著者名			
参考書名 4					
出版社名		著者名			
参考書名 5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					

教員実務経験	
造形活動の経験を生かし、イメージの生成方法、具体化、作品展示などの制作手順を指導する。コンセプトワークも説明し修得できるようにする。	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	課題1 感覚の交換音楽を造形にする。自身が、詩がない音楽を選択する。選択した音楽を○△□の抽象的形態と色彩を使用し、レリーフ作品を制作する。。最初配布した素材を使用し、仮のレリーフ形態を制作しイメージデッサンを制作する。
2	課題1イメージデッサンの確認ができれば素材に着彩をする。絵具は水彩が適切だと考えるが自身が選んだものを使用してもよい。
3	課題1着彩の作業とともに、レリーフ化するため部位の接着を行う。接着には木工ボンドが適切かと思いますが自身で選んでもよい。
4	課題1作業を続ける。レリーフの特性を考え正面からだけでなく上下左右からも作品を確認する。
5	課題1対話的手法で作品鑑賞と採点を行う。採点終了学生から次の課題に進む。
6	課題2 パーソナリティーの作品化自身の人格、人柄、人間性など客観的に分析し多様な素材で表現する。
7	課題2 自身の分析とイメージデッサンを制作をする。
8	課題2 各自で素材や技法を選択し考察する。
9	課題2 制作を持続させる。
10	対話的な方法で作品を鑑賞し言語化に努める。採点を行う。
11	課題3 場の特性を観察し考察し造形を制作する。(サイトスペシフィックアート、インスタレーションの概念の理解)
12	制作に関して素材、色彩等は自身で判断する。制作された作品は、場所に設置し記録写真を複数枚撮影する。
13	制作に関して素材、色彩等は自身で判断する。制作された作品は、場所に設置し記録写真を複数枚撮影する。用意した制作作品データ用紙 UNPA を通して配信する。
14	制作を続ける。配布した用紙には、作品に対するコンセプトとステイトメントの記入があるので、作品制作の言語化も必要。
15	ワークシート提出対話形式で採点をする。

科目名	造形芸術演習Ⅱ	年次	1	単位数	2
授業期間	2024年度 後期	形態	演習		
教員名	谷口 貞久				
クラス名					
授業目的と到達目標					
制作することの楽しさや可能性を見出し、創造する為に必要な描写力や表現力を身につける。					
授業概要					
基本となる観察から始め、構造の理解や遠近法を学び、徐々に難易度を高めていき、最終的にはグラビアや写真等を使用した想定デッサン(ものを見て描く力だけでなく、自分の視点や発想を表現するデッサン)を行います。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
個人の準備物は必ず持参してください。又、積極的かつ意欲ある姿勢で授業に臨んで下さい。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
作品点と授業態度や授業に取り組む姿勢等、総合的に評価			100%		
教科書情報					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					
教員実務経験					
子供絵画教室・中学校～短大・大人の方まで幅広く長年指導した経験を生かし、基礎力向上の授業を行います。(公社)二科会 会員 (社)日本美術家連盟 会員					
授業計画(各回予定)					

授業回	授業内容
1	ガイダンス授業説明・デッサンについて・個人用準備物について・11段階グレースケール枠作成
2	課題1:基礎デッサン1(1回目)「グレースケール制作・手のデッサン」 鉛筆や筆圧の使い分け、面の方向性や明暗の取り方 形態の把握(骨格や肉付き)・質感・量感、ポーズの取り方
3	課題1:基礎デッサン1(2回目)
4	課題2:基礎デッサン2(1回目)「色鉛筆デッサン(組モチーフ)...玉ねぎ又はリンゴ・紙コップ・立方体」 構図・構成の取り方、空間の表現、彩色の仕方
5	課題2:基礎デッサン2(2回目)
6	課題3:遠近法基礎「ティッシュ箱描写」 各種の遠近法、モチーフによる遠近法の使い分け
7	課題4:遠近法応用(1回目)「構築物デッサン(校内)」 構築物の把握と空間の認識・表現、ダイナミックな光と陰影
8	課題4:遠近法応用(2回目)
9	課題4:遠近法応用(3回目)
10	課題4:遠近法応用(4回目)
11	課題5:想定デッサン(1回目)「構築物(遠近法)を利用したシュルレアリスム的作品(色鉛筆をどこかに使用する)」及び講評 超現実的な作品制作、イメージの具現化、素描作品としての見せ方
12	課題5:想定デッサン(2回目)
13	課題5:想定デッサン(3回目)
14	課題5:想定デッサン(4回目)
15	課題5:想定デッサン(5回目)

科目名	造形芸術演習 I	年次	1	単位数	2
授業期間	2024 年度 後期	形態	演習		
教員名	加藤 隆明				
クラス名	工芸学科				
授業目的と到達目標					
現代のアートシーンの意味と意義についての理解と制作実践ができるようにする。表現者は社会とともにあり社会の一員でもある。身近な現実の体験から架空の疑似的体験まで表現者の制作意欲は揺さぶられる。その意欲が具体的制作に変換できるような思考と身体を用いられるようにできたらと考えている。					
授業概要					
課題テーマは基本 3 作品制作。1 作品課題に 5 回分の授業時間を想定している。授業時間以外にもイメージデッサンや素材選びなど制作思考継続が必要である。また、各自の制作スピードが異なるので自身が制作プランニングを予測し実行する必要がある。作品提出採点に関しては、制作学生と対話形式で互いに作品を鑑賞し言葉を交わし作品の理解を深める。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
工芸史美術史の大まかな理解は必要。社会の動向と作品のテーマ様式は密接にある。そのため身の回りにある社会的関心ごととは注意し調べておく必要がある。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
課題 3 つの提出。			課題 100 点満点で点数化する。その課題が 3 作品なので合計点を 3 で割り、その後欠席遅刻等の減点数を加味する。		
教科書情報					
教科書 1					
出版社名		著者名			
教科書 2					
出版社名		著者名			
教科書 3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名 1					
出版社名		著者名			
参考書名 2					
出版社名		著者名			
参考書名 3					
出版社名		著者名			
参考書名 4					
出版社名		著者名			
参考書名 5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					

教員実務経験	
造形活動の経験を生かし、イメージの生成方法、具体化、作品展示などの制作手順を指導する。コンセプトワークも説明し修得できるようにする。	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	課題1 感覚の交換音楽を造形にする。自身が、詩がない音楽を選択する。選択した音楽を○△□の抽象的形態と色彩を使用し、レリーフ作品を制作する。。最初配布した素材を使用し、仮のレリーフ形態を制作しイメージデッサンを制作する。
2	課題1イメージデッサンの確認ができたなら素材に着彩をする。絵具は水彩が適切だと考えるが自身が選んだものを使用してもよい。
3	課題1着彩の作業とともに、レリーフ化するため部位の接着を行う。接着には木工ボンドが適切かと思いますが自身で選んでもよい。
4	課題1作業を続ける。レリーフの特性を考え正面からだけでなく上下左右からも作品を確認する。
5	課題1対話的手法で作品鑑賞と採点を行う。採点終了学生から次の課題に進む。
6	課題2 パーソナリティーの作品化自身の人格、人柄、人間性など客観的に分析し多様な素材で表現する。
7	課題2 自身の分析とイメージデッサンを制作をする。
8	課題2 各自で素材や技法を選択し考察する。
9	課題2 制作を持続させる。
10	対話的な方法で作品を鑑賞し言語化に努める。採点を行う。
11	課題3 場の特性を観察し考察し造形を制作する。 (サイトスペシフィックアート、インスタレーションの概念の理解)
12	制作に関して素材、色彩等は自身で判断する。制作された作品は、場所に設置し記録写真を複数枚撮影する。
13	制作に関して素材、色彩等は自身で判断する。制作された作品は、場所に設置し記録写真を複数枚撮影する。用意した制作作品データ用紙 UNPA を通して配信する。
14	制作を続ける。配布した用紙には、作品に対するコンセプトとステイトメントの記入があるので、作品制作の言語化も必要。
15	ワークシート提出対話形式で採点をする。

科目名	造形芸術演習Ⅱ	年次	1	単位数	2
授業期間	2024年度前期	形態	演習		
教員名	谷口 貞久				
クラス名					
授業目的と到達目標					
制作することの楽しさや可能性を見出し、創造する為に必要な描写力や表現力を身につける。					
授業概要					
基本となる観察から始め、構造の理解や遠近法を学び、徐々に難易度を高めていき、最終的にはグラビアや写真等を使用した想定デッサン(ものを見て描く力だけでなく、自分の視点や発想を表現するデッサン)を行います。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
個人の準備物は必ず持参してください。又、積極的かつ意欲ある姿勢で授業に臨んで下さい。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
作品点と授業態度や授業に取り組む姿勢等、総合的に評価			100%		
教科書情報					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					
教員実務経験					
子供絵画教室・中学校～短大・大人の方まで幅広く長年指導した経験を生かし、基礎力向上の授業を行います。(公社)二科会 会員 (社)日本美術家連盟 会員					
授業計画(各回予定)					

授業回	授業内容
1	ガイダンス授業説明・デッサンについて・個人用準備物について・11段階グレースケール枠作成
2	課題1:基礎デッサン1(1回目)「グレースケール制作・手のデッサン」 鉛筆や筆圧の使い分け、面の方向性や明暗の取り方 形態の把握(骨格や肉付き)・質感・量感、ポーズの取り方
3	課題1:基礎デッサン1(2回目)
4	課題2:基礎デッサン2(1回目)「色鉛筆デッサン(組モチーフ)...玉ねぎ又はリンゴ・紙コップ・立方体」 構図・構成の取り方、空間の表現、彩色の仕方
5	課題2:基礎デッサン2(2回目)
6	課題3:遠近法基礎「ティッシュ箱描写」 各種の遠近法、モチーフによる遠近法の使い分け
7	課題4:遠近法応用(1回目)「構築物デッサン(校内)」 構築物の把握と空間の認識・表現、ダイナミックな光と陰影
8	課題4:遠近法応用(2回目)
9	課題4:遠近法応用(3回目)
10	課題4:遠近法応用(4回目)
11	課題5:想定デッサン(1回目)「構築物(遠近法)を利用したシュルレアリスム的作品(色鉛筆をどこかに使用する)」及び講評 超現実的な作品制作、イメージの具現化、素描作品としての見せ方
12	課題5:想定デッサン(2回目)
13	課題5:想定デッサン(3回目)
14	課題5:想定デッサン(4回目)
15	課題5:想定デッサン(5回目)